

会 議 参 加 報 告 書

令和7年10月14日

会 派 名 公明党市議団

会派代表者 野下 達哉

(参加者：野下 達哉、石原 資泰、岡地 清仁)

会議参加の結果について、次のとおり報告します。

年 月 日	第1日 令和7年10月9日(木)
開催時間	午前9時30分～午後4時30分
開催場所	ライトキューブ宇都宮(宇都宮駅東口交流拠点施設)
会議内容	<p>【議題】成熟社会の都市のかたち ～コンパクトで持続可能なまちづくり～</p> <p>9:30 開 会 式 開会挨拶 全国市長会会長 広島県広島市長 松井一實 氏 開催市市長挨拶 栃木県宇都宮市長 佐藤栄一 氏 来賓祝辞 栃木県知事 福田富一 氏</p> <p>9:50 基調講演 人口減少・成熟社会のデザイン 京都大学名誉教授 広井良典 氏</p> <p>10:50 主 報 告 人口減少社会に対応する都市の構造改革 ～100年先も発展できる 「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成～ 栃木県宇都宮市長 佐藤栄一氏</p> <p>13:10 一般報告 「縮充」発想による公共施設マネジメント 東洋大学国際PPP研究所シニアリサーチパートナー 南 学 氏</p> <p>14:30 一般報告 都市縮小時代の持続可能なまちづくり ～人がつどい 未来に躍動する 世界都市・高松～ 香川県高松市長 大西 秀人 氏</p> <p>15:30 一般報告 次世代交通とコンパクトで持続可能なまちづくり 早稲田大学理工学術院教授 森本章倫 氏</p>

所 感	<p>本会議では、人口減少と成熟社会を背景に、持続可能な都市の在り方を再構築するための方策について、多方面からの講演・報告が行われた。全体を通じて、「拡大」から「再編・連携」への転換が求められる時代であることを強く実感した。</p> <p>京都大学名誉教授・広井良典氏の基調講演では、経済成長を前提とした従来型の発展モデルから脱却し、地域内での循環と共生を基盤とする“定常型社会”への移行が提起された。人口減少を「衰退」ではなく「成熟」と捉える視点は、今後のまちづくりの理念形成において重要な示唆を与えるものであった。</p> <p>宇都宮市・佐藤栄一市長による主報告では、LRT 整備を軸とした「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成が紹介され、交通と居住・商業の結節による都市機能の再構築が進められていることが示された。長期的な視野のもと、100 年先を見据えた都市政策を推進する姿勢は、今後の地方都市にとっても大いに参考となる。</p> <p>また、公共施設の再配置を「縮小」ではなく「充実」と捉える“縮充”の発想や、次世代交通の導入による新たな都市構造の形成など、限られた資源を有効に活かす具体的事例も多く示された。</p> <p>今回の会議を通じ、江南市においても、交通・居住・公共施設を一体的に再構築し、地域内での人と資源の循環を基軸とした持続可能な都市づくりを進めていく必要性を再認識した。</p>
-----	--

年 月 日	第 2 日 令和 7 年 10 月 10 日（金）
開催時間	午前 9 時 30 分～午前 11 時 50 分
開催場所	ライトキューブ宇都宮（宇都宮駅東口交流拠点施設）
会議内容	<p>9 : 30 パネルディスカッション</p> <p>【テーマ】</p> <p>成熟社会の都市のかたち ～コンパクトで持続可能なまちづくり～</p> <p>【コーディネーター】</p> <p>埼玉大学大学院人文社会科学研究科教授 内田奈芳美 氏</p> <p>【パネリスト】</p> <p>(株)みちのりHD代表取締役 グループCEO （兼）関東自動車(株)代表取締役社長 吉田 元 氏 まちなか広場研究所主宰 山下裕子 氏 北海道室蘭市長 青山 剛 氏 （代理出席高橋氏） 鳥取県米子市長 伊木隆司 氏</p>

	<p>11：50 閉会式</p> <p>次期開催市市長挨拶 山形県山形市長 佐藤孝弘 氏</p> <p>閉会挨拶</p> <p>公益財団法人日本都市センター理事長 香川県高松市長 大西秀人 氏</p>
所 感	<p>今回のパネルディスカッションでは、「成熟社会における都市のかたち」をテーマに、人口減少や少子高齢化が進む中で、これからのまちづくりの方向性について多面的な議論が交わされた。</p> <p>吉田元氏からは、地域交通を単なる移動手段としてではなく、「人の暮らしやつながりを支える基盤」として捉える視点が示され、非常に印象に残った。交通を核にまちの元気を取り戻そうという発想には、地域活性化への強い思いが感じられた。</p> <p>また、山下裕子氏からは、まちなか広場のような「人が集い、関わり合う場所」の大切さが語られた。ハード整備だけでなく、市民が自ら関わり、運営に参加することで、まちに愛着や活気が生まれるというお話には深く共感した。</p> <p>さらに、青山剛室蘭市長（代理出席高橋氏）や伊木隆司米子市長からは、都市機能の集約化や空き地対策など、現場での具体的な取組が紹介された。限られた財源の中でも、創意工夫によってまちの魅力を高めようとする姿勢に、地方自治の力強さを感じた。</p> <p>全体を通して、「拡大」から「質」へと重点を移す時代に、どのように“人が暮らしやすいまち”をつくるかが問われていることを実感した。江南市でも、公共交通や中心市街地の再生を通じて、住む人が誇りをもてる、持続可能なまちづくりを進めていきたいと改めて感じた。</p>